



新九郎通信



発行 小田原市栄町2-13-3 (株)伊勢治書店3F ギャラリー新九郎 木下泰徳
e-mail:kinoshita@iseji.net

天候不順な環境にあっても新緑がまぶしい5月になりました。新生活をスタートした人にとっては、5月のゴールデンウィークはちょっと一息できる休暇かもしれません。小田原の5月は北条祭りで開けます。城址公園では3.4.5の3日間名物市や北条六斎市でにぎわいそうです。北条五代祭りのパレードは市内の小・中・高・大学も参加し、自治会や議員・子ども会とも協働しての大イベント。馬出門12時半のスタートです。今月から新九郎通信の配信が一部変更になりました。新九郎には沢山置いてありますので、画廊巡りの際には是非お持ちになってください。今月も充実の新九郎です。皆様のお越しをお待ちしています。



新九郎 5月の展覧会のご案内

会 期	展 覧 会 名	見 どころ
4/28(水)-5/3(月)	広川英夫個展-中国少数民族を描く-	原色を使い明るく、あたたかな絵です。中国少数民族・風景・花等の油彩35点。
5/5(水)-5/10(月)	高橋雅和展	私の日々の制作は、あらゆる混沌のなかに、何も見えず 見えず 然しあらゆるものに耳をそばだて聞いている それは貝殻の内に宿る東の間の震える結晶体なのだ
5/7(金) イベント	田辺一邑講談「二宮尊徳」	18:00 開場 18:30 開演 前売チケット1000円
5/12(水)-5/17(月)	あじさいの会作品展	6名の会員(創立10年)による油彩・水彩画、身近な静物・風景等
5/14(金) イベント	ギャラリー新九郎デッサン会	18:15~20:45 会費1000円
5/20(木)-5/23(日)	禅文化展覧会	東泉禅院所蔵の書画による禅文化の展覧会 5月23日(日)14時~岸達志住職講演会
5/26(水)-5/31(月)	森の気まぐれ三人展	藍染・陶芸・彫金3人の女性による素敵な展覧会。 小田原の木材を使った展示台もいい雰囲気です (山盛りの会協賛)

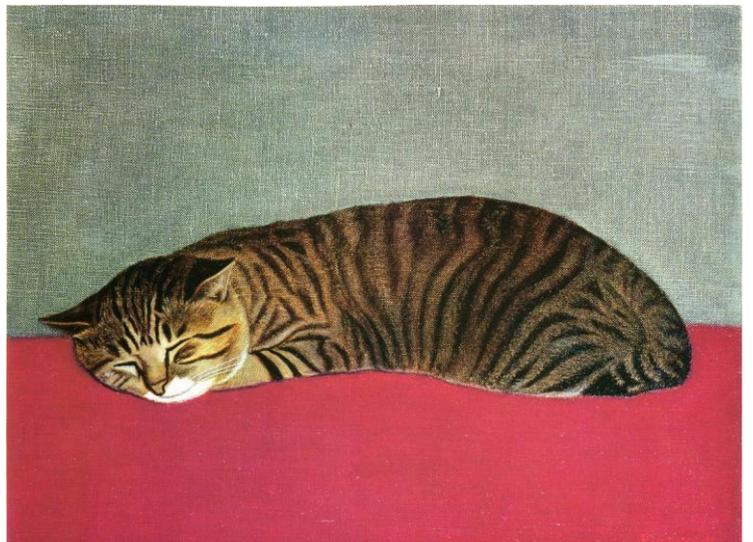
近隣・友の会会員の展覧会情報

畑中純 黄金展 版画・ペン画・水彩画 ナチュラル展 ぐるうぷ碧・ちゃりてい展 あらたま展 劔持コレクション 地図絵葉書で見る国府津 第3回日比修油絵展 住谷重光展 浅倉貴子展・倉橋元治展 在る無展 利根川佳江展 永山健一郎展-ペン画- ボヴェ和歌子 作陶展 Atelier Hayakawa1-8 Exhibitions	4月29日(木)~5月9日(日) 5月6日(木)~10日(月) 5月5日(水)~9日(日) 5月19日(水)~5月24日(月) 5月6日(木)~22日(土) 5月5日(水)~5月10日(月) 5月1日(土)~6月29日(火) 5月1日(土)~11日(火) 5月1日(土)~12日(水) 5月15日(土)~30日(日) 5月21日(金)~28日(金) 5月18日(火)~23日(日) 5/2.3.4.9.10.14.16.17.18.23.24.28.30	ギャラリー大磯 アオキ画廊2F 飛鳥画廊 飛鳥画廊 寄りあい処こうづ お堀端画廊 奈良屋カフェギャラリー・宮の下※水・4木休 ギャラリーこま・大磯 すどう美術館 すどう美術館 大磯町立図書館 丹沢美術館・秦野 http://www.atelier-hayakawa1-8.com/
--	---	--

ようこそ平塚美術館

平塚美術館学芸員 勝山 滋

平塚市美術館では長谷川隣二郎展を開催中です。じっくり描いた静かな画境は、小品であっても密度があり、見る者を引きつけてやみません。ある評論家は日本の近代美術に描かれた「猫」作品ベスト3に入る名品といます。菱田春草、竹内栖鳳や藤田嗣治など候補をあげるのも楽しいですが、これらと並び称されるこの猫は、画家の愛猫、タロー。この姿勢になるのが、暑くなく寒くない気候の時期だけであったため、片ひげが描かれる完成前にタローの寿命が尽きてしまったといいます。





国道246をほんの少し入っただけで、こんなに畑や雑木林が残る閑静な住宅街があるとは驚いた。今が盛りと咲く桃の花、メダカや金魚の水槽が所狭しと置かれ愛情深く飼育されている庭。高橋さんはそんな温かなご家族と3人で座間市西栗原に暮らしている。リビングに掛けられていた作品を、一目で私は気に入ってしまった。高橋さん20歳の瑞々しい作品だった。藤色の中に赤と白の塊のおかれた雰囲気のある作品は、実に丁寧に仕上げられていた。「月と金魚」というタイトルだと聞き、この家から自然に生まれた作品である事を思った。

6年前湘南台画廊の個展で初めて出会ったとき受けた神聖な印象は今も忘れてはいない。小品ながら丁寧に塗り重ね、重なり合って生まれた画面からは、作家の息づかいと豊かな感性がにじみ出ている。<ピュア>という言葉が似合う心地よい作品だった。抽象画の作家の中にはいろいろな描き方をされる方がいる。具象のモチーフをベースに描く方、自身のテーマを追求する方などいられる中で高橋さんの創作の源泉には大変興味があった。

1日の大半を過ごしているという2階のアトリエは、驚くほどきちんと整理整頓されていた。部屋の大半を占めていたのは膨大な数の本とレコード・CDで、本棚からあふれだした本は島になって床に置かれ、アトリエ全体が作品のような独特の雰囲気があった。コレクションしているというDMもきちんとファイルに収めていて丁寧なお人柄が伝わった。中でも目を引いたのは詩や俳句の蔵書の多さだ。原書で読むのだというランポーを始め尾崎放哉 三好達治 松尾芭蕉 正岡子規 などその範囲も広い。「GIFT from the SEA」がお気に入りの1冊なのだという。音楽をかけて制作されているのかと伺うと、音楽に集中しすぎてしまうのでだめらしい。そこにはあくまでも作品と真摯に対峙する作家の姿が見えた。

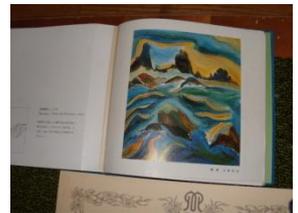
高く積まれたキャンバスがあった。白。下地作りをしているキャンバスだ。何が何年も手を加え続けているのだと、さんの作品が発する独特の空気感には、新たな創造の源を知ることができた。



高橋さんのキャンバスにはまったくレンズを考えた画面構成でできている。下きながらこれでいいという瞬間が来る

1日のほぼすべてを創作活動に充てているというそのストイックとも映る生活だが、音楽や読書以外に気分転換に神社によく行くらしい。神社には独特の「気」があり、自然に触れることで身体がすっとするのだといわれた。よく行く神社にはお気に入りの木があり、木に触れることで多くのものを享受している実感があるのだという。高橋さんの作品は、デッサンの積み上げで創る作品ではなく、自然や本、音楽や画集、身の回りに溢れる日々の営みの中から多くのものを感じ、自分自身の中に積み上げているのだ。やがて積み上げられた感受は高橋ワールドとして表出する。感受性の鋭い者にしか表すことのできないピュア作品は、こうして生まれていたのだ。作品としての丁寧さは下地作りから長い時間をかけて重ねられた時間でもあり、時間のなかから現れるものだったことを知り、改めて彼は作家として選ばれた資質を持つ方なのだ確認できた気がする。

彼の画歴は長い。幼いころから美術館が好きで熱心にじっと見ている子どもだった。小学校のころから絵も詩もよく褒められ、中学では美術部で初めて油絵具と出会った。乾いては重ねるとい水彩色と異なる手法が面白くて道具をそろえ夢中で描いたという。そんな中「神奈川景勝50選」に応募した真鶴の風景が最優秀賞を受賞する。中学1年13歳のことである。記念の図録を見せていただいた。多くの応募者を抑え最高の賞を受けた作品のタイトルは『時間』であった。



ここ数年 絵画の個展やグループ展のほか『詩』の発表も続けている。小品が中心だった今までの作品から手法も大きさも異なる新しい作品づくりにチャレンジしている。下地作りに時間をかけたキャンバスに 色のついた書のように一気呵成に自分を吐き出したと自信を深める。描いたものを是非見てほしいと力を込める。

高橋雅和展は新九郎企画としていよいよ5月5日から始まる。

友の会 木下和子 (インタビュー 木下泰徳)

4月の事

*平塚美術館で「長谷川溝二郎展」があると聞き、『美術館があるということはこういう企画ができるんだ、いいなあ』と思った。長谷川溝二郎はその昔、芸術新潮の「きまぐれ美術館」に掲載された知る人ぞ知る優れた画家である。チラシの「猫」は代表作だ。この猫には髭が片方しか描かれていないのだが、そのエピソードを洲之内徹が実に面白く書いていた事を思い出した。(長谷川溝二郎「猫」は新潮文庫「絵のなかの散歩」に収録)

*楽しみにしていた「溝二郎展」を、妻と義母と共に見に行った。車椅子の義母も広い館内は一人で好きなように見て回れ、楽しんでた。館外の彫刻や庭の眺めも良く、久々の外出に義母も心が解放されたようで喜んでた。東京まで連れて出かけるのは無理でも、近い場所でゆったりと素晴らしい絵が見れることは何とも幸せなことだ。豊かな充実した時間だった。これが同じ市内にあればなおさらである。やはり西湖地区 2市8町の中心である小田原に美術館は必要である。改めて思ったのだ。

*先日、茅ヶ崎美術館に見たい絵があり行ってきた。館内のリーフレットによれば美術館の収蔵品1300点とある。小田原市のアート関係の収蔵品は学芸員の話では100点に満たないらしい。いかにアートに目が向けられてこなかったのかが分かる。これからは物よりも心の充足が求められる時代である。アートはその中の大切なもののひとつだと思う。真の豊かさを求めて小さな声でもあげ続けなければと思っている。

邪宗門
寺子屋シリーズ第6回「音・味」
こどもの心 こぼの魔法
朗読とギター弾き語りで綴る白秋の世界
朗読 伊馬匣子 (伊馬春部次女)
弾き語り 瀬戸克信

2010年5月29日(土)
16:00 開場 16:30 開演
会場 三寶寺 小田原市八幡2-12-26
喜捨 3500円 (食事・デザート付)
問合せ・予約 邪宗門&花御童こぶた
TEL 0465-47-0202

ギャラリー新九郎スペシャル講談
田辺一邑「二宮尊徳」

2010年5月7日(金)
18時開場 18時半開演
入場料 1000円 (前売り) 当日 1200円
チケット発売所 伊勢治書店金店
【プロフィール】97年田辺一鶴に入門
09年真打ちに昇進、江戸文化歴史検定2級

第167回林の中のコンサート
ヴァイオリン&ピアノ

横山奈加子 佐々木京子

2010年5月29日(土)
13:30開場 14:00開演
開場 南足柄グリーンヒル堀家邸
入場料 大人3500円 学生2000円
申込先 堀家と男 (終了後ミロパーティ)
TEL(ルスカ) FAX 0465-73-3951

第8回西さがみ街なみ・ふる里再発見!
展 関連事業 まちあるき

参加費 無料
小雨決行 (強風・雨天の場合は中止)

2回目5月15日(土)
街角博物館コース (約2時間)
(雨天の場合5月22日に順延)
【集合場所】JR 小田原駅東口・金次郎像前
13:00
【終了予定】銅門広場着 15:00
お申込み先 木下携帯 090-9324-4084